

令和 4 年度 間伐モニタリング検討会のまとめ

間伐モニタリング見直し検討会での確認事項について、主だったものは以下のとおり。

■ 針広混交林化は難しいが引き続きモニタリングをしていくこと

- ・調査地内で既に混交林化している場所は、初期の除伐不足が主な原因。
- ・今後、針広混交林化の可能性があると判断される場所は少ない。
- ・可能性があると判断される一部の調査場所は全て低標高地である（常緑樹が多いこと、シカが少ないことが要因）。
- ・次期構想等で針広混交林を示すかどうかを検証するため、本事業ではモニタリングを続ける。

■ 人工林整備の当面の目標値として、1000 本/ha 未満は妥当性がある（改めて確認）

- ・林内の明るさに直結するのは相対幹距比（ S_r ）よりも本数密度である。
- ・1000 本/ha 未満で植被率は概ね 100%となる（下の図 1-2）。
- ・1000 本/ha 未満はあくまで当面の目標値なので、それ以降の目標値は引き続き検証が必要。

■ 本事業では適正な間伐率の検証は難しいこと

- ・立木密度などの条件が各調査地でバラバラのため。

■ シカによる更新阻害の調査をしていくこと

- ・下層植生に対して、シカの食害が最大のインパクトであると思われるため、今後その点を検証する調査プロットを設ける。

■ 各調査地に目標林型を設定し、それに向けた誘導手法を検証していくこと

- ・健全ステージの次の話を考えていく時期になっている。
- ・劣勢木間伐以外の伐採手法も検討するべき。

■ 調査デザインが崩れたプロットは調査を終了すること

- ・意図しない環境変化があった場所は終了する。

